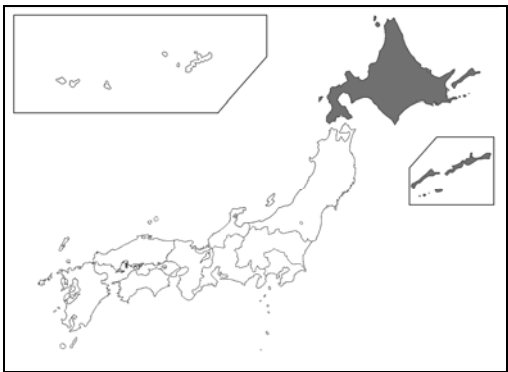


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、 〃は下方に変更)。

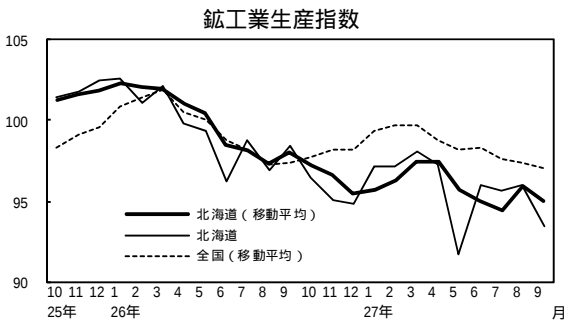
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 8 月)	今回 (平成 27 年 11 月)	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まりの兆し	↑
住宅建設	増加	大幅に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。
7～9月期には、生乳生産は乳製品向けが増加したため、総量では976,613tと前年比1.9%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、さんま等が減少したため、前年比33.3%減となった。

(2) 鉱工業生産は、下げ止まりの兆しがみられる。
7～9月期には、食料品は、主に乳製品等が好調だったことから増加した。パルプ・紙は、雑種紙が海外向けで堅調だったこと等から、増加した。電気機械は、車載用集積回路が好調だったこと等から、増加した。鉄鋼は、建設用鋼材、機械用鋼材が不調だったこと等から、減少した。輸送機械は、駆動伝動装置が好調だったこともあり、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

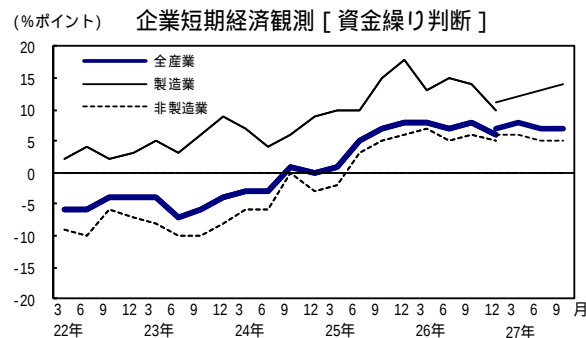
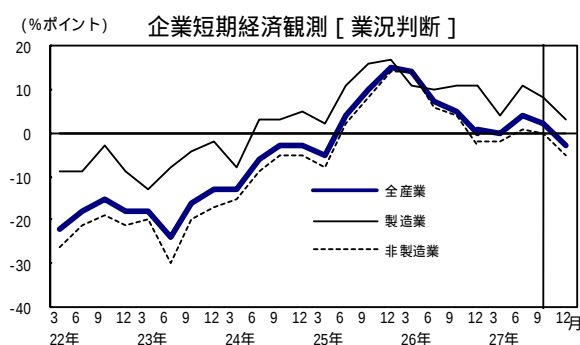
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
食料品	24.2	▲2.7	0.8	2.9	▲1.2	1.3
パルプ・紙	11.9	▲8.9	3.4	0.2	2.6	▲1.8
電気機械	11.7	▲4.8	0.8	▲2.9	1.1	▲6.0
鉄鋼	7.5	▲4.3	▲3.4	▲6.6	0.4	1.2
輸送機械	7.0	▲2.1	1.5	▲0.4	2.8	▲3.4
鉱工業	100.0	▲2.5	0.0	▲0.3	0.3	▲2.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

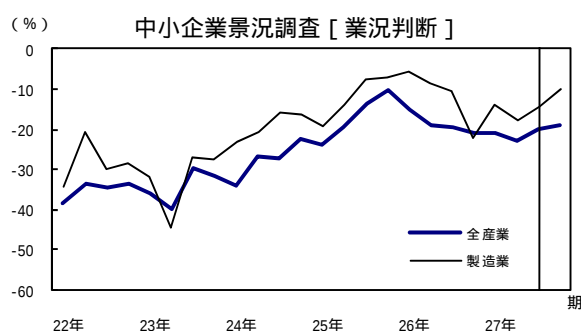
(1) 北海道

(3) 業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

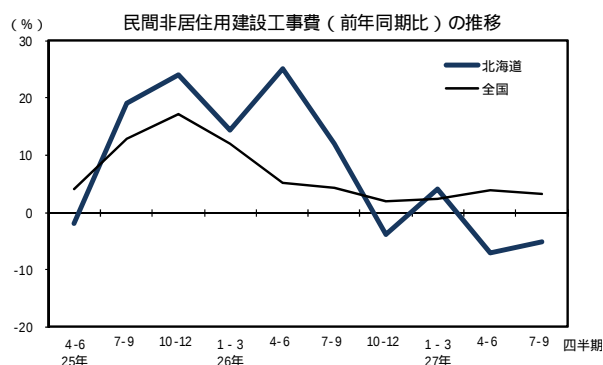


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「鋼材類の輸送については、軒並み前年割れが続いている。特段、大きな案件が出てくる話も聞かれず、新規受注やスポット受注も決まっていない状況にある(輸送業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

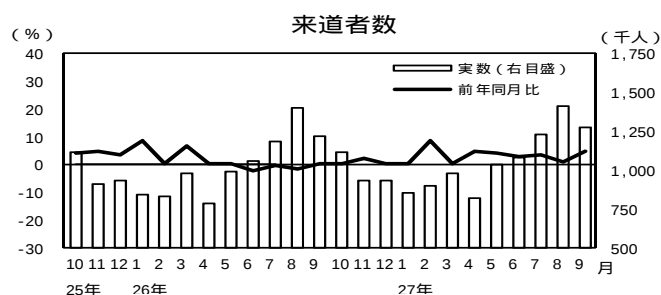
(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	9.1	10.1(▲0.5)
製造業	▲17.6	10.2(▲9.7)
非製造業	25.3	10.0(3.6)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は、緩やかに増加している。
来道者数は、インバウンドやシルバーウィーク期間中の観光、帰省需要等により増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7月は前月比1.2%増、8月は同2.5%減、9月は同3.6%増となった。

百貨店・スーパー販売額

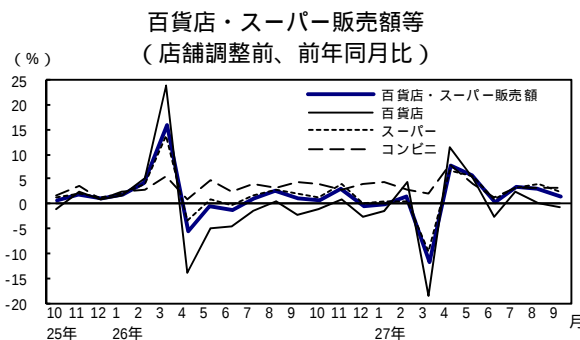
百貨店は、7月は、飲食料品が不調だったものの、衣料品、身の回り品、その他が好調で、前年を上回った。8月は、衣料品、身の回り品、飲食料品が不調だったものの、その他が好調で、前年を上回った。9月は、身の回り品、飲食料品、その他は好調だったものの、衣料品が不調で、前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品、その他が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（10月）[家計動向関連（現状）]

北海道地域の家計動向関連DIは、46.2となり前月より2.9ポイント低下した。

「当地域の動向が一向に上向いてこない。今年になって前年を上回った月は1か月のみであり、新商品の投入も売上につながってこない。地場経済の低下と消費者マインドの落ち込みが多分に影響を与えている（乗用車販売店）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

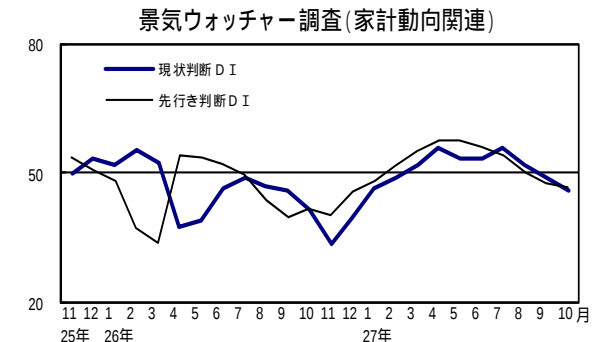
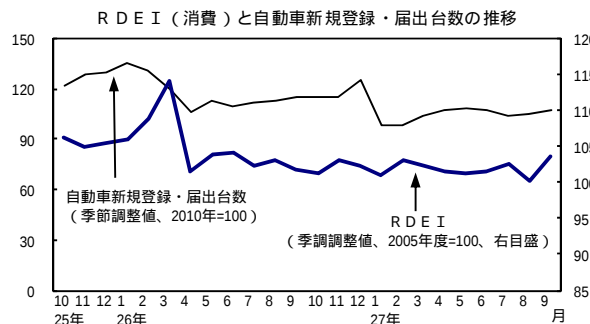


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	0.7	1.2	▲2.5	3.6
百貨店・スーパー(*2)	2.7	3.3	3.0	1.6
百貨店(*2)	0.7	2.4	0.2	▲0.8
スーパー(*2)	3.2	3.4	3.8	2.3
コンビニ(*2)	3.3	3.2	3.2	3.4
乗用車(*3)	▲7.1	▲7.2	▲5.1	▲8.4
(季節調整値)(*3)	▲2.1	▲3.2	1.1	1.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

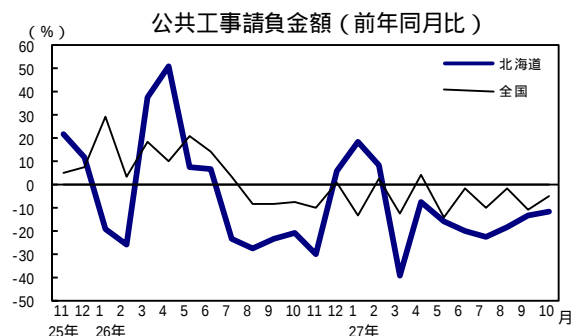
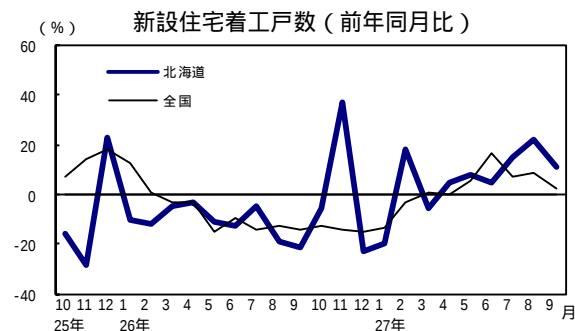
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。

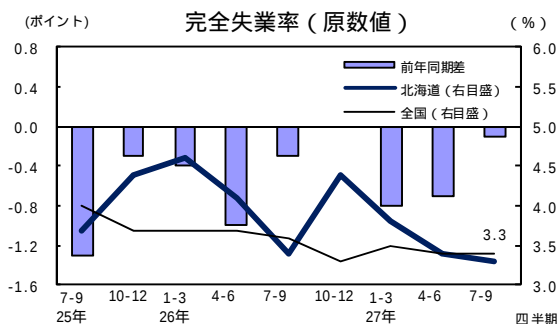
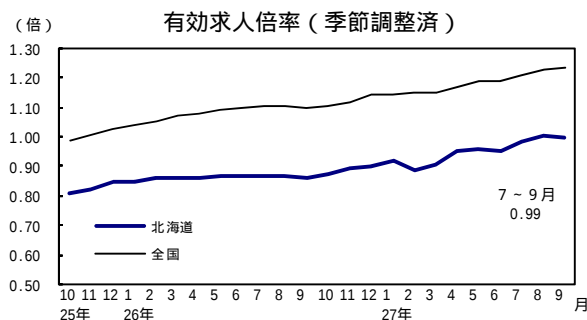


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

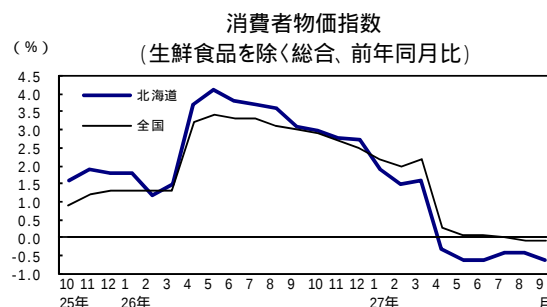
「公共事業が前年割れを続けているなか、建設業の求人が前年よりも減少している (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は上昇、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	59	82	61	77	22
(前年比)	▲14.5	▲10.9	▲20.8	5.5	0.0
負債総額	81	245	136	113	26
(前年比)	▲41.5	55.7	▲22.9	▲25.1	32.1



○ 景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・観光シーズンも終わり、観光客の入込が悪くなり、年末に向けての歳末商戦がどうなっていくのが懸念される。また、客の財布のひもがなかなか固く、節約意識が高い (高級レストラン)。

<先行き>

・外国人観光客の増加や個人消費が増えているとの報道はよく目にするが、それらは一時的なものであり、肝心の一般市民の消費の活性化や拡大は一向に進んでおらず、そうした実感も全くないことから、今後も変わらない (観光名所)。

